日本の子どもの詩

日本作文の会 編

栃木

日本の子どもの詩

栃木

日本作文の会 編

岩崎書店

日本作文の会
日本の子どもの詩 9
岩崎書店 昭57
110p 21cm
内容：9 栃木
〔分〕911

日本の子どもの詩 9 栃木
一九八二年四月一五日 初版発行
編者 日本作文の会
発行者 森山甲雄
印刷所 株式会社 K・M・S
株式会社 金羊社
製本所 小高製本工業株式会社
発行所 岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1982 Nippon Sakubun no kai 〔分〕8392〔製〕108009〔出〕0360
—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「栃木編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918〜1945

8 秋の空
月夜の晩
星
草かり
9 夕方
となりの赤ちゃん
梅の木
10 木こり
げた
いなご
雨がえる
11 ほたるとり
ふうせん
おばあさん
12 かげ
炭焼
父
13 おともり
稲仕事
14 朝
ハツイ
服
牛
15 かわいい妹
はなどり
朝
16 砂とり
土
田こぎり
17 煙草つくり
父
18 月光
家
リレー
旗
秋の空
19 さつま入れ
高原登山
秋のせみ
20 ズロース
麦ふみ
21 母
風
もや取り

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

22 夕日とふじさん
宮参り

1945
〜
1959

24 はち
こいのぼり
あさごはん
いたずらねこ
25 おかあさん
きんぎょ
ハーモニカ
26 月夜
あかちゃんの手
悲しみ
27 ハードル
陶工の手
28 麻
いろみず
29 ひとりっこ
おかあちゃんの おっぱい
だんごさし
30 ネオン
ごむふうせん

31 お月夜
病気の詩
校舎引き
32 働く父と母
33 草
帰り道
34 山芋
たいふう
きのことり
35 とんぼ
にちようび
36 あらし
かぜ
いねこき
37 きのことり
けむり
さざんか
山あそび
38 秋まつり
まき割り
39 たばこ
ユニホーム
40 ゆず
〝自然〟は心
41 こじき
42 お母さんのあしあと

おしょうがつ
おかぁさんの手
43 米つき
しもばしら
44 ヒヨコ
富士の山

1960〜1969

46 えんそく
おつきさん
ほん
47 おっとせい
たねまき
工場で働く人
48 石山のおとうさん
49 下うけ業
いちごのなえうえ
あみぶち
50 おかあちゃん
さつき
51 とうちゃんのしごと
さわがに
52 そんな伸夫くんがすき
汽車
53 さっちゃんとかぶとむし
54 おとうさんのむね
水道
55 わたしたちの村
カニ
ほおずきの思い出
56 山車
57 メロン
ひこうきぐも
58 せんぼんかぶ
ゆずの木
59 ふとん
60 てつぼう
せいはん
61 先生になりたい
子うし
62 粉塵
夕やけ空
63 ある日
おぼんを彫る父
64 夕やけ
勝利
65 牛
66 姉からの手紙
狩猟

およめさん
67 あぶりだし
たことばし
68 弟
69 いねこき
大きなかさ
70 たばこの荷造り
宇都宮城の城あとで
71 火ぶり
北風
72 春を待つ

1970〜

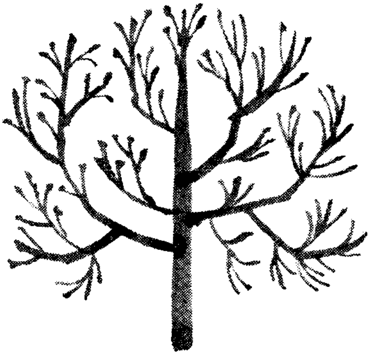
74 ふじさん
かたつむり
人間てふしぎだな
75 なまずつり
76 金もくせいの雨
プラネタリューム
77 じょうぶなからだがほしい
78 ふきの皮むき
稲かり
79 二つの心
80 ブリキ屋
81 カンちゃん
82 かあさん
はやくおうちが できないかな
83 わたしのきれいなはんてん
おかあさんへ
84 ゆうちゃん
子牛が生まれた
85 へび
小林君
正枝ちゃん
86 弟のね顔
87 おにいちゃんは かわった
88 おねえちゃんの結婚式
宝くじ
90 倒れた父
91 おじいさん
とらんしいばあ
92 おとうさんのせなか
おぼんさん
93 おとうさん
お父さんの話
94 父の手
95 ぼくとお話
96 そばの花
ばあちゃんの墓参り

97 父の手
98 おやじ
99 ぶどうばたけ
ぎょうれつ
100 おとうちゃん がんばれ
しぶがき
101 白かば林
ほし
102 あけび
たばこ

103 ぼうじぼ
104 あり
開演前
105 若者たちのノート

*

107 あとがき——栃木県の児童詩指導の歩み
110 この本の編集をした人たち



1918～1945
（大正７年）　（昭和20年）

ここからあとのページには

＊日本で子どもたちが、詩をかくようになりはじめたころ。

＊児童自由詩といわれたものから児童詩、児童生活詩とよばれるようになったころ。

＊村や町の子どもたちが、りっぱな詩をぐんぐんかいていたのに、大きな戦争のために、それがおとろえてしまったころ。

そんなころの栃木県の子どもの詩がならんでいる。

秋の空

平賀祐一（十四歳）

雨が降る。
栗が小屋の、
屋根に落ちる。
ペンの音がする。
時どき雁（がん）のこゑがすぎる。

宇都宮市二条町四

月夜の晩

鳥沢光二　小4

一日降った雨やんで
今夜はまるい月が出た。
兄ちゃんごらん
姉さんお出で
みんなで一しょにながめましょう

河内郡白沢校（指導）高橋田麿

星

宇加地美雄　小4

あちらの空に一つ出た。
こちらの空に二つ三つ
見ているうちに数万の
星の世界になりました。
へいたいあそびのくんしょうに
一つ取りたい金の星。

河内郡白沢校（指導）高橋田麿

草かり

石本文子　小4

草をかろうと行ったらば
毛虫が一ぱいたかってた。
たまげてたまげて飛び出した。
そしたらそこの草の中
大きなへびがぐるぐると
わっかになって居（お）りました。

此为试读，需要完整PDF请访问： www.ertongbook.com

思わずきゃあと足をあげ
なにがなんだか夢中です。
草をからずにとぼとぼと
わたしは草かりこりごりだ。

河内郡白沢校（指導）高橋田麿

夕方

太田タカ　小4

太陽は西の山にかくれた。
やま帰りの人がぽつぽつ
我が家をさして行く。
家の屋根から
ぽーぽーと煙が立ち上っている。
河原の方は
黒い煙がたなびいて
はっきり見えない。
白い馬が
赤い馬が帰ってこないので、
さびしげにないた。

河内郡白沢校（指導）高橋田麿

となりの赤ちゃん

堀内キクノ　高1

となりの赤ちゃん赤い顔
お手々を出して笑ってる
ほんとに可愛いい女の子
となりの赤ちゃんすやすやと
にこにこ顔でねんねした
その名もかわいい
さだ子さん

河内郡白沢校（指導）高橋田麿

梅の木

横山次雄　小5

庭さきの梅の木は、
風の日も
雨の日も
ひとりぽっちで立っている。
春になったら
芽をふき出すぞといって立っている。

さむさに負けずに立っている。

安蘇郡植野校

木こり

室井秀夫　小6

僕が木を切っていると
こん　こん　と
遠い谷の方にこだまする
なたを見るときらきらと輝いて
切れ味のよいこと

那須郡黒磯校

げた

薄井イチ　小6

げた箱にのこされた
一足のげた
ろうかを歩く小さい足音
赤いはなおの私のげたが
ろうかを歩く私の足をまっている

塩谷郡矢板小

いなご

くろこきみえ　小1

さむい　あさ
いなごが　あつまって
もやもやうごいている。
せなかが　赤いのも
あおいのもいる
はやく　お日さま　てってくれ

芳賀郡大羽校

雨がえる

鶴貝　操　小4

どこでなくのかあまがえる
若葉の上でなくのかな
げきげきげきげきかえるなく
雨がふるのかかえるなく

足利郡山前校

ほたるとり

阿部政治　小4

僕はほたるが大すきだ
光ってきれいであかるくて
僕はほたるが大すきだ
僕は毎ばんほたる取り
一人でたんぼへほたる取り
ほーたるこいやまぶしこい
夜のちょうちんたかのぼり
あっちの水はにがいぞ
こっちの水はあああまいぞ
大きなこえでうたいながら
僕は毎ばんほたる取り
たんぼへ一人でほたる取り

那須郡黒田原校

ふうせん

中島イチ　小5

小さな子
顔より大きな風船（ふうせん）ふくらましている
ほおをつっぱりながら
ふくらましている
中々ふくらまない
それでも一心にふくらましている
顔が赤くなった
きんときみたいにふくらまったよ
小さい子うれしそうにかかえている

塩谷郡矢板校

おばあさん

緑川キヨ　小5

てつびんの湯くらくらにえたった
おばあさん、おちゃわんもってきて
あつい湯をきびしょ（きゅうす）についで

湯のみの中へじゃーとあけ
立ち上がるけむりをぷっとふいて
一人であつそうにのんでいる
お茶のすきなおばあさん
のまない朝はめったにない。

那須郡黒田原校

かげ

烏山善之助　小6

街燈（がいとう）の下に
自動車がある。
中には誰もいない。
ただ、
かげが
長くうつっている。

那須郡烏山校（指導）荒井司

炭焼

大島一次　小6

うす紅く
色づいた
谷間から
谷間から
うすじろい煙が
立ちのぼっている。
風もないのに
ゆらりゆらりと
うごいてる。

那須郡烏山校（指導）荒井司

父

横尾宏二　小4

いろりにいた父
うでをくんで
何か考えている

そばによると父は
「宏二、木をもって来てもうせ（もやせ）」
といった。
ぼくは「はい」といってもってきた。
父はまた何か考えている。
すると、立ちあがって
つくえの前にいって
一生けんめいに
手紙を書いている
父の手
ふるえているようにして
書いている

上都賀郡粟野第一校（指導）大橋渡

おともり（子もり）

小島幸二　小6

ぼくはおともり。
なくねんね（こども）
やだなあといいながら
しかたがない。
おともりする。
泣かなければ
あすべる（あそべる）のに
おともりは一番大きらいだ。
仕事の方がよっぽどいい。
泣くねんねをぶう（せおう）のは、
うれしかない。

上都賀郡粟野校（指導）大橋渡

稲仕事（いねしごと）

戸坂常作　小5

ガラコーン　ガラコーン、
稲こく音が遠くからきこえる。
おれらも稲こきだ。
午後の日がかんかんてっている。
又、
ガラコーンガラコーンときこえる。
ガラコーンガラコン、
どんどんはかどっていく。

上都賀郡粟野第一併置校（指導）大橋渡

朝

市原モト　小5

手がしびれるほどの朝
ぞうきんをしぼったつめたい水
太陽に照らされた右手
戸にうつったかげ
ぞうきん水がたれたよ

河内郡雀宮校（指導）菊地信

ハツイ

福富キヨイ　小5

かんぴょうはで（ほしば）の下、
まだ立てないと思ったハツイ、
けつをもちあげてやっこら立った。
かんぴょうむきしていた。
皆手（はくしゅ）ばたきした。
ハツイも両手をあわせて笑った。

河内郡雀宮校（指導）菊地信

服

平田茂子　小5

服を買ってもらった
私、
たくさんなわをなった。

芳賀郡七井校（指導）檜山正雄

牛

福永陶夫　小5

牛にものをやりに行くと、
すぐにくるりと
うまやの中でまわってくる、
僕の手に
口を持ってくる。

芳賀郡七井校（指導）檜山正雄

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com